

荒川区民総幸福度（GAH）レポート

～住み続けたいと思うまちづくりに向けて～



2013（平成25）年度から毎年（2020（令和2）年度をのぞく）実施してまいりました「荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査」（以下「区民アンケート調査」とします。）は、2025年度に12回目の調査を迎えました。

これもひとえに、区民の皆様のご協力によるものであり、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

今回のレポートでは、「住み続けたいと思うまちづくり」をテーマに過去11回分の区民アンケート調査の結果をふりかえり、区民の皆様にとって荒川区が住み続けたいまちになるにはどうしたらよいのか考えていきたいと思えます。

目次

1	はじめに.....	1
	(1) 滝口新区政.....	4
	(2) 寛容で温かい地域とは.....	4
	(3) GAH 指標からみる「住み続けたいと思うまち」とは.....	4
2	注目する GAH 指標、データ分析の手法.....	7
	(1) 住み続けたいと思うまちと三つの環境.....	7
	(2) データ分析について.....	7
3	三つの環境と GAH 指標の関係性.....	8
	(1) 三つの環境と GAH 指標の関わりของความ.....	8
	(2) 快適な住環境で説明する GAH 指標について.....	9
	(3) 子育てしやすい環境で説明する GAH 指標について.....	10
	(4) 安心して暮らせる環境で説明する GAH 指標について.....	11
	(5) まとめ.....	11
4	GAH 指標の属性分析について.....	12
	(1) 各 GAH 指標における回答者の属性の選定.....	12
	(2) 散布図の読み方について.....	12
	(3) 快適な住環境と関わりのある GAH 指標の属性分析.....	13
	①心のバリアフリー（環境分野）.....	13
	②文化的寛容性（文化分野）.....	15
	③快適な住環境の実現に向けて.....	16
	(4) 子育てしやすい環境と関わりのある GAH 指標の属性分析.....	17
	①地域の人との交流の充実（文化分野）.....	17
	②地域に頼れる人がいる実感（文化分野）.....	19
	③子育てしやすい環境の実現に向けて.....	20
	(5) 安心して暮らせる環境と関わりのある GAH 指標の属性分析.....	21
	①個人の備え（安全・安心分野）.....	21
	②災害時の絆・助け合い（安全・安心分野）.....	23
	③安心して暮らせる環境の実現に向けて.....	24
5	まとめ.....	25
	(1) 滝口新区政と寛容で温かい地域.....	25
	(2) 住み続けたいと思うまちと GAH 指標の関係.....	25
	(3) 三つの環境の実現に向けて.....	25
	「文献」.....	26
	巻末資料.....	27
	(1) 三つの環境で設定した GAH 指標の経年変化（全体の平均値の推移）.....	27
	(2) 6 つの GAH 指標の経年変化（全体の平均値の推移）.....	27
	(3) 6 つの GAH 指標における属性別の平均値と標準偏差.....	28

1 はじめに

荒川区では、現行の荒川区基本構想のもと、誰もが幸せを実感できるまち「幸福実感都市あらかわ」の実現を目指して、荒川区民総幸福度（グロス・アラカワ・ハッピーネス：GAH）に関する取組を進めており、区民の皆様の幸福度を測るための「荒川区民総幸福度（GAH）指標」（以下「GAH 指標」とします。）を作成しています。GAH 指標は2ページにある図表1のとおり、荒川区が基本構想で掲げた6つの都市像に対応した、「健康・福祉」、「子育て・教育」、「産業」、「環境」、「文化」、「安全・安心」という6つの分野ごとの指標と、これらを総合する「幸福実感」指標の、全46指標で構成されています。区では、これらの指標を用いて、2013年度から毎年度、「荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査（※）」（以下、「区民アンケート調査」とする。）を実施してきました。

荒川区自治総合研究所（RILAC）は、区が抱える課題等について、横断的に調査研究を行い、区に対して政策の提言等を行っています。これらの一環として、区民アンケート調査の分析結果を広く皆様にお知らせするため「荒川区民総幸福度（GAH）レポート」を発行しています。

今回のレポートでは、「住み続けたいと思うまちづくり」をテーマに過去11回分の区民アンケート調査の結果をもとに政策の提言をしていきたいと思えます。

（※）荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査の概要

- 調査期間：2013年度から毎年1回実施
（2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）
- 調査対象：満18歳以上（2015年度までは満20歳以上）の荒川区民4,000人（無作為抽出）
- 回収方法：郵送又は電子申請
- 調査項目：
 - ①荒川区が目指す6つの都市像に対応した6分野ごとの指標（45指標）及び幸福実感指標（1指標）の実感度
⇒5段階評価で回答
 - ②回答者の幸せにとっての指標の重要度
⇒各分野の上位3指標を回答
 - ③回答者の幸せにとっての分野の重要度
⇒6分野の順位を回答
 - ④自由に記述して回答する設問
 - ⑤回答者自身の属性

図表1 荒川区民総幸福度（GAH）指標の体系

		分野	上位指標（※1）	下位指標（※2）	
荒川区民総幸福度（GAH）指標	幸福実感	健康・福祉	健康の実感	体の健康	運動の実施
					健康的な食生活
					体の休息
				心の健康	つながり★（※3）
					自分の役割
					心の安らぎ
	健康環境	医療の充実			
		福祉の充実			
	子育て・教育	子どもの成長の実感 ¹	「生きる力」	規則正しい生活習慣	
				「生きる力」の習得	
			家族関係	親子コミュニケーション	
				家族の理解・協力	
	子育て教育環境	子育て・教育環境の充実			
		地域の子育てへの理解・協力 望む子育てができる環境の充実			
	産業	生活のゆとり	仕事	生活の安定★	
				ワーク・ライフ・バランス	
			地域経済	仕事のやりがい	
				まちの産業 買い物の利便性 まちの魅力	
	環境	生活環境の充実	利便性・ユニバーサルデザイン	施設のバリアフリー	
				心のバリアフリー	
			快適性	交通利便性	
まちなみの良さ 周辺環境の快適さ★					
持続可能性	持続可能性				
	文化	充実した余暇・文化活動、地域の人とのふれあいの実感	余暇活動	興味・関心事への取組	
生涯学習環境の充実					
地域文化		地域への愛着			
		地域の人との交流の充実 地域に頼れる人がいる実感 文化的寛容性			
安全・安心	安全・安心の実感	犯罪	防犯性★		
			事故	交通安全性★	
		生活安全性★			
		災害		個人の備え	
			災害時の絆・助け合い 防災性		

区民アンケート調査では、それぞれの指標についての実感を「1（まったく感じない）」から「5（大いに感じる）」までの5段階でお答えいただきました。

※1 「上位指標」とは、各分野の総合的な実感を把握するための指標です。

※2 「下位指標」とは、各分野のより具体的な実感を把握するための指標です。

※3 ★印の指標は、質問文で「不安を感じますか」「危険を感じますか」など、負の実感を尋ねています。実感度を算出する際には、負の実感を持つ人の実感度が低くなるように換算しています。

¹ 子育て・教育分野は、18歳未満の子どもがいるの方のみを対象とした質問(指標)になります。

図表2 荒川区民総幸福度（GAH）指標の質問文一覧

分野	No.	指標	質問文
	1	幸福実感	あなたは幸せだと感じますか？
健康・福祉	2	運動の実施	体を動かしたり運動したりすることができていると思いますか？
	3	健康的な食生活	健康的な食生活を送ることができていると感じますか？
	4	体の休息	体を休めることができていると感じますか？
	5	つながり★	孤立感や孤独感を感じますか？
	6	自分の役割	家庭や職場、学校、地域などで、自分の役割があると感じますか？
	7	心の安らぎ	心が安らぐ時間を持つことができていると感じますか？
	8	医療の充実	お住まいの地域に、安心してかかることができる医療機関（病院や薬局など）が充実していると感じますか？
	9	福祉の充実	お住まいの地域では、高齢者や障がい者への福祉が充実していると感じますか？
	10	健康の実感	心身ともに健康的な生活を送ることができていると感じますか？
	子育て・教育	11	規則正しい生活習慣
12		「生きる力」の習得	お子さんが、社会で生活していく上で必要な知識や技能、社会性、体力などを身につけていると思いますか？
13		親子コミュニケーション	親子の間でコミュニケーションがとれていると感じますか？
14		家族の理解・協力	あなたのご家族には、子育てに関する理解や協力があると感じますか？
15		子育て・教育環境の充実	お住まいの地域における子育て・教育に関する事業・サービス・施設など（提供しているのが、民間か行政かを問わず）が充実していると思いますか？
16		地域の子育てへの理解・協力	お住まいの地域に、子育て家庭に対して理解し、協力する雰囲気があると感じますか？
17		望む子育てができる環境の充実	自分が望む子育てができるような環境があると感じますか？
18		子どもの成長の実感	お子さんが健やかに成長していると感じますか？
産業（生活・産業・経済）	19	生活の安定★	生活を送るために必要な収入を得ていくことに不安を感じますか？
	20	ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活とのバランスが取れていると感じますか？
	21	仕事のやりがい	仕事に、やりがいや充実感を感じますか？
	22	まちの産業	荒川区の企業（お店や町工場など）は元気で活力があると感じますか？
	23	買い物の利便性	お住まいの地域での買い物が便利だと思いますか？
	24	まちの魅力	荒川区は、区外から人が訪れたい魅力のあるまちだと思いますか？
	25	生活のゆとり	経済的な不安がなく、買い物などに不便のない生活を送ることができていると感じますか？
環境（生活環境）	26	施設のバリアフリー	お住まいの地域の商業施設や公共施設が、バリアフリーの面から、だれもが使いやすいと思いますか？
	27	心のバリアフリー	お住まいの地域には、困っている人を見かけた時に、声を掛けたり協力したりしやすい雰囲気があると感じますか？
	28	交通利便性	お住まいの地域は交通の便が良いと感じますか？
	29	まちなみの良さ	お住まいの地域のまちなみ（景観・緑など）は良いと感じますか？
	30	周辺環境の快適さ★	お住まいの地域で、生活する上での不快さを感じますか？
	31	持続可能性	あなたは、節電やごみの減量など、地球環境に配慮した生活をしていると思いますか？
	32	生活環境の充実	お住まいの地域が、バリアフリーの状況や交通の便、まちなみの良さ、快適さ等の点から総合して暮らしやすい生活環境であると感じますか？
文化（文化・コミュニティ）	33	興味・関心事への取組	興味・関心のあることに取り組むことができていると感じますか？
	34	生涯学習環境の充実	生涯にわたって学習できる環境が充実していると感じますか？
	35	地域への愛着	荒川区の文化や特色に愛着や誇りを感じますか？
	36	地域の人との交流の充実	お住まいの地域の方と交流することで充実感が得られていると感じますか？
	37	地域に頼れる人がいる実感	お住まいの地域に頼れる人がいると感じますか？
	38	文化的寛容性	お住まいの地域には、文化や言語が自分と異なる人々を理解しようとする雰囲気があると感じますか？
	39	充実した余暇・文化活動、地域の人とのふれあいの実感	充実した余暇・文化活動や地域の方とのふれあいのある生活が送れていると感じますか？
安全・安心	40	防犯性★	お住まいの地域で、犯罪への不安を感じますか？
	41	交通安全性★	お住まいの地域で、自動車や自転車などの交通事故の危険を感じますか？
	42	生活安全性★	家庭や学校・職場などで、転倒、転落、落下物などの危険を感じますか？
	43	個人の備え	災害（地震・火災・風水害）に対する備えを十分にしている安心感がありますか？
	44	災害時の絆・助け合い	災害時に近隣の人と助け合う関係があると感じますか？
	45	防災性	お住まいの地域は災害に強いと感じますか？
	46	安全・安心の実感	お住まいの地域は犯罪や事故、災害などの点から総合して安全だと感じますか？

(1) 滝口新区政

2024（令和6）年11月に5期20年に渡り荒川区政を担ってきた西川太一郎氏が勇退し、2024年11月14日から滝口学氏が新たな荒川区長に就任しました。

滝口区長は、就任のあいさつにあたり、「世代をつなぐ」、「地域をつなぐ」、「みんなの力をつなぐ」の「3つのつなぐ」をビジョンに掲げ、新時代のあらかわへ向けて、区政を進めていくことを宣言しました（荒川区 2025）。

その思いは、2025（令和7）年度の予算説明の中にも表れており、区政の各分野における世代・地域・人の力の三つの力をつなぐ取組を進めて、寛容で温かい地域づくり、荒川区の明るい未来につなげることを宣言しました（荒川区議会事務局 2025）。

(2) 寛容で温かい地域とは

先述の2025（令和7）年度予算説明で出てきた言葉「寛容で温かい地域」について、その具体的な内容について考えていきます。

まず、「寛容」の意味を広辞苑で調べると三つの以下の意味が掲載されています。具体的には、「①寛大で、よく人をゆるし受け入れること。咎めだてしないこと。」（中略）、「③異端的な少数意見発表の自由を認め、そうした意見の人を差別待遇しないこと。」（新村編 2008：651）です。

次に、「温か」の意味を広辞苑で調べると「②愛情がこまやかで冷淡でないさま。」（中略）、「④事を荒だてないさま。穏やか。」（新村編 2008：57）という意味が掲載されています。

これらの意味を踏まえて、「寛容で温かい地域」を「自分とは異なる考えを持つ他者を相互に理解し、受け入れて穏やかに暮らすことのできる地域」のように考えると、「寛容で温かい地域」は「住み続けたいと思うまち」と言い換えられると研究所は考えます。

そこで、荒川区の政策形成等の指標であるGAH指標にスポットを当てて、次節では、「住み続けたいと思うまち」について、どのGAH指標を使って、検討するのかを説明します。

(3) GAH指標からみる「住み続けたいと思うまち」とは

まずは、「住み続けたいと思うまち」とGAH指標との関係についてみていきます。「住み続けたいと思うまち」つまり、その地域に住み続けたいと思う一つの感情として、「そこに住むことで幸せを実感できる」という感情があると考えます。この視点に立つと、「住み続けたいと思うまち」とはそこに居住している区民の幸福実感が高い地域と考えることができます。

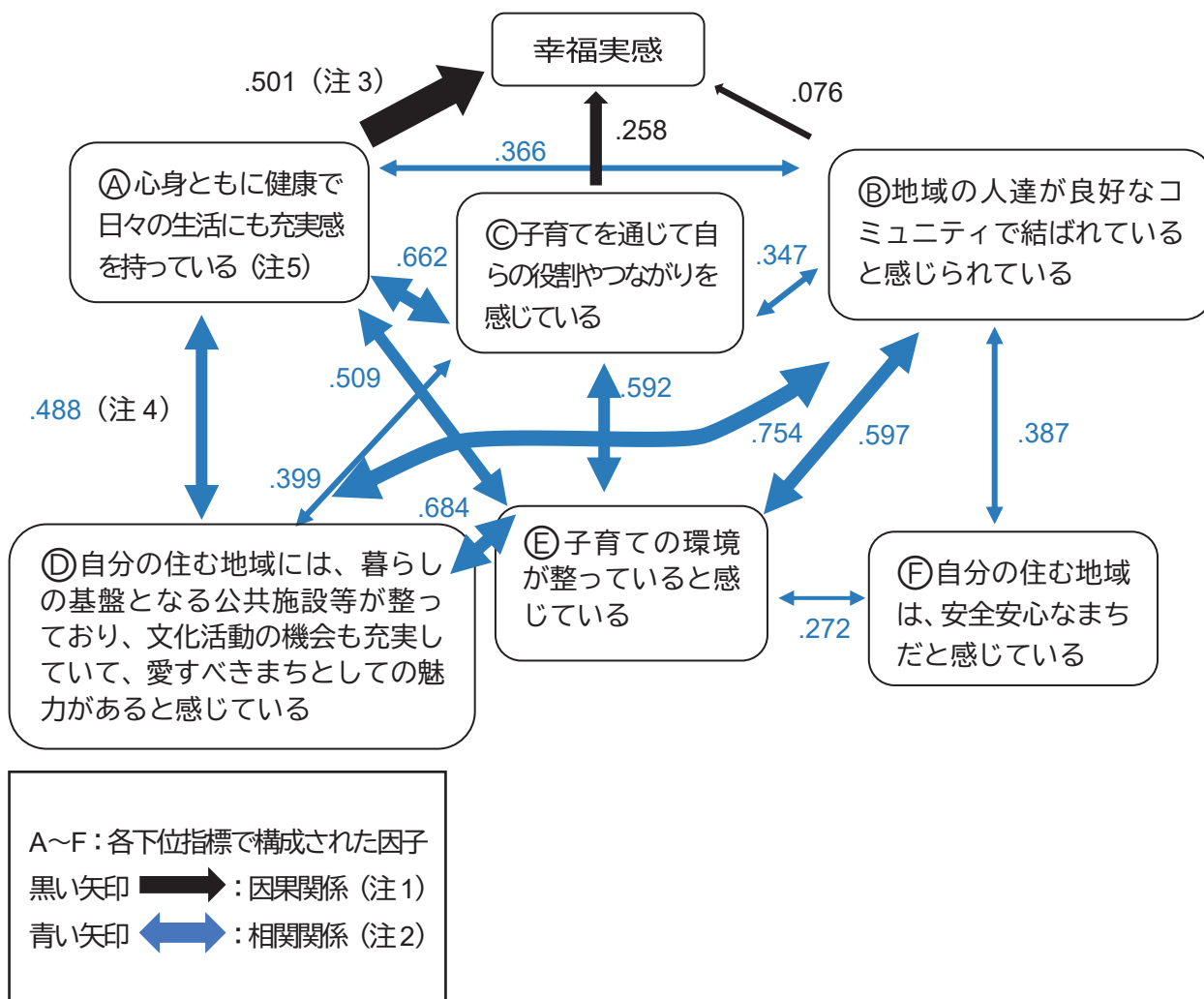
「幸福実感が高い」と推測できる指標として、GAH指標の最上位指標があります。ついては、GAH指標の最上位指標を軸に「住み続けたいと思うまち」について説明します。

まず、最上位指標に影響を与えるGAH指標について調べることにしました。そこで注目したのが、2018（平成30）年12月に研究所が発行した報告書「荒川区民総幸福度（GAH）に関する調査研究報告—GAH アンケート調査5年分の解析から見えてきた政策課題とその取り組みの方向性の試案—」（以下「報告書」という。）です。この報告書では、最上位指標である「幸福実感」とGAH下位指標（39個）の因果関係や相関関係について記載しています。この報告書から最上位指標に影響を与えるGAH下位指標について考えていきます。

図表 3 をご覧ください。図表 3 は報告書に掲載されている GAH 指標の最上位指標である「幸福実感」の構造を調べる手法として、共分散構造分析（様々な原因と結果の関係性を図で示すことができるもの）によるモデルを示したものです。具体的には、GAH 下位指標（39 個）について共分散分析によるモデル化を行い、GAH 下位指標を因子 A～F に分類したものです。また、それぞれの因子間の因果関係（黒色矢印）と相関関係（青色矢印）も併せて記しています。

なお、報告書では、「子育て・教育分野を除く」モデルと「18 歳未満の子どもがいる属性」モデルの二つの共分散構造モデルを示しています。今回は 1 ページで説明した荒川区の基本構想で示された 6 つの都市像全てに注目するため、「子育て・教育分野」を含んだ「18 歳未満の子どもがいる属性」を含む共分散構造モデルを使用します。

図表 3 共分散構造モデルにおける因子間の関係性と幸福実感への影響の度合い



出典 荒川区自治総合研究所 (2018)

注1 因果関係とは、二つの事柄が「原因」と「結果」の関係にあること。

注2 相関関係とは、二つの事柄に何らかの関係があること。

注3 因果関係の矢印の近くにある数字は、「偏回帰係数」である。例えば「幸福実感」と因子Aの矢印近くにある「.501」は「偏回帰係数が0.501」であることを意味する。

注4 相関関係の矢印の近くにある数字は、「相関係数」である。例えば、因子Aと因子Dの矢印近くにある「.488」は「相関係数が0.488」であることを意味する。

注5 GAH 下位指標 39 個については、それぞれ因子 A (8 個)、因子 B (5 個)、因子 C (7 個)、因子 D (9 個)、因子 E (3 個)、因子 F (7 個) に分類されている。

はじめに注目したいのが、因子 A,B,C です。因子 A~C は GAH 指標の最上位指標である幸福実感との間で因果関係があります。因果関係があるということは、「因子 A (B 又は C) の実感度が高い (又は低い) から、幸福実感度が高い (又は低い)」という関係にあることを意味します。

また、因子 A~C から「幸福実感」に伸びている黒色の矢印近くにある数値 (因子 A : .501、因子 B : .076、因子 C : .258) は「偏回帰係数」と呼ばれるものです。これは、他の因子の値を固定した時に、当該因子が 1 増加又は 1 減少した際に、幸福実感がどれだけ増加又は減少するかを示したものになります。

次に注目するのは、因子 A~C と相関関係のある因子 D~F です。まず、これらの因子は「地域環境の特性」という共通項目があります。また、これらの因子は因子 A~C のそれぞれと正の相関関係があることもわかります。正の相関関係があるということは、例えば、因子 D の実感度が高いとき、因子 A の実感度も高い傾向にあることを意味します。

これらの因果関係と相関関係からわかることは、因子 D~F の実感度を高めることができれば、因子 A~C の実感度が高くなる傾向があり、その結果として幸福実感の向上につながり、「住み続けたいと思うまち」の実現に近づくということです。

因子 A~C の内容の重要性については、これまでも折に触れ述べてきましたが、今回注目するのは因子 D~F です。因子 D~F は直接個人の幸福と関係するものではありませんが、幸福に関係する要素 (因子 A~C) と強く相関する因子です。そして、その内容こそ「住環境が充実していること」、「子育て環境が充実していること」、「安全・安心なまちであること」という「環境」に関する因子と考えます。

そこで、今回のレポートでは「住み続けたいまちづくり」について政策提言を行えることを目指し、「住環境の充実」、「子育て環境の充実」、「安全安心なまち」に関係のある指標の分析を行います。

2 注目する GAH 指標、データ分析の手法

(1) 住み続けたいと思うまちと三つの環境

「住み続けたいと思うまち」づくりに向けて、図表 3 で示した因子 D~F について GAH 指標の設定やデータ分析を行います。ここで、今後これらの因子について、因子 D を「快適な住環境」、因子 E を「子育てしやすい環境」、因子 F を「安心して暮らせる環境」と呼んで、これら「三つの環境」に対して、どの GAH 指標が該当するかについて考えます。

まず、図表 3 の共分散分析では GAH 指標（39 個）の関係性の中から A~F の因子を導きましたが、GAH 指標の中には因子 D~F の幸福実感を測るための GAH 指標が既に存在しています。

図表 4 のとおり、具体的には、「快適な住環境」では、環境分野の GAH 指標である「生活環境の充実」、子育てしやすい環境」では、子育て・教育分野の GAH 指標である「望む子育てができる環境の充実」、「安心して暮らせる環境」では、安全・安心分野の GAH 指標である「安全・安心の実感」です。今後はこれらの GAH 指標を各環境の幸福実感を測る GAH 指標とします。

図表 4 三つの環境ごとに設定した GAH 指標

三つの環境	分野	GAH 指標
快適な住環境	環境	生活環境の充実 ²
子育てしやすい環境	子育て・教育	望む子育てができる環境の充実 ³
安心して暮らせる環境	安全・安心	安全・安心の実感 ⁴

注 各指標の質問文は脚注に記載しています。

(2) データ分析について

本レポートでは、三つの環境の指標として設定した GAH 指標と全 GAH 指標のうちの下位指標（39 指標）との関わりの度合い（相関関係のうち、正の相関関係）に注目し、相関係数が【0.30 以上】の GAH 指標の中から数個の GAH 指標を選定します。その後、選定した GAH 下位指標における回答者の属性分析を行い、三つの環境の実感度の向上に向けて必要だと考える政策について提案を行います。

なお、データ分析の対象とするデータは過去 11 年間（2013 年度～2024 年度【2020 年度は中止】）の区民アンケート調査の結果とします。

² 質問文は、「お住まいの地域が、バリアフリーの状況や交通の便、まちなみの良さ、快適さ等の点から総合して暮らしやすい生活環境であると感じますか？」

³ 質問文は、「自分が望む子育てができるような環境があると感じますか？」

⁴ 質問文は、「お住まいの地域は犯罪や事故、災害などの点から総合して安全だと感じますか？」

3 三つの環境と GAH 指標の関係性

(1) 三つの環境と GAH 指標の関わりの強さ

図表 5 は、三つの環境で設定した GAH 指標と 39 個の GAH 指標の関わりの度合い(相関係数)を示したものです。相関係数が 0.30 以上のものについて色付けを行っています。具体的には、①0.30 以上 0.35 未満、②0.35 以上 0.40 未満、③0.40 以上 0.45 未満、④0.45 以上 0.50 未満、⑤0.50 以上の 5 段階で設定しました。相関係数の値が大きいほど、赤色が濃くなります。

また、GAH 指標の選定の際は、インフラ施設の強化といったハード面に関する GAH 指標ではなく、例えば、人との関わりや地域との関わりといった形のない魅力(ソフト面)についての GAH 指標に注目し、これからの荒川区の目指す姿について検討していきます。

図表 5 三つの環境の GAH 指標と 39 個の GAH 指標の相関係数について

分野	指標	生活環境の充実	望む子育てができる環境の充実	安全・安心の実感
健康・福祉	運動の実施	0.164	0.167	0.149
	健康的な食生活	0.216	0.257	0.180
	体の休息	0.190	0.267	0.191
	つながり	0.107	0.221	0.075
	自分の役割	0.149	0.228	0.074
	心の安らぎ	0.215	0.295	0.170
	医療の充実	0.328	0.359	0.248
	福祉の充実	0.368	0.385	0.249
子育て・教育	規則正しい生活習慣	0.146	0.276	0.114
	「生きる力」の習得	0.203	0.357	0.176
	親子コミュニケーション	0.152	0.300	0.099
	家族の理解・協力	0.162	0.325	0.114
	子育て・教育環境の充実	0.365	0.686	0.225
	地域の子育てへの理解・協力	0.377	0.699	0.257
	望む子育てができる環境の充実	0.395	1	0.298
	生活の安定	0.130	0.225	0.172
産業	ワーク・ライフ・バランス	0.209	0.320	0.196
	仕事のやりがい	0.208	0.237	0.140
	まちの産業	0.338	0.333	0.264
	買い物の利便性	0.375	0.317	0.216
	まちの魅力	0.385	0.318	0.271
	施設のバリアフリー	0.493	0.289	0.327
	心のバリアフリー	0.387	0.337	0.266
環境	交通利便性	0.400	0.255	0.192
	まちなみの良さ	0.505	0.340	0.379
	周辺環境の快適さ	0.218	0.203	0.219
	持続可能性	0.198	0.081	0.129
	興味・関心事への取組	0.221	0.255	0.173
	生涯学習環境の充実	0.376	0.417	0.245
	地域への愛着	0.378	0.314	0.267
文化	地域の人との交流の充実	0.306	0.340	0.251
	地域に頼れる人がいる実感	0.266	0.334	0.229
	文化的寛容性	0.317	0.349	0.290
	防犯性	0.260	0.214	0.401
	交通安全性	0.208	0.172	0.315
	生活安全性	0.185	0.160	0.231
安全・安心	個人の備え	0.241	0.213	0.419
	災害時の絆・助け合い	0.242	0.248	0.327
	防災性	0.303	0.217	0.657

(2) 快適な住環境で説明する GAH 指標について

「快適な住環境」の GAH 指標「生活環境の充実」について、相関係数が高い順番にまとめたものが図表 6 です。

相関係数が高いのは、同じ環境分野の GAH 指標である「まちなみの良さ」、「施設のバリアフリー」、「交通利便性」の三つです。このことから、地域に緑があることや交通の便が良いこと、地域施設におけるバリアフリーが進んでいることが快適な住環境に関係があることがわかりました。また、快適な住環境が子育てのしやすさやまちの魅力、地域への愛着などにも関係していることがわかりました。加えて、医療や福祉の充実、災害に強いまちという側面も快適な住環境に関係があることもわかりました。

その中で今回注目するのは、5 番目の「心のバリアフリー」と 15 番目の「文化的寛容性」です。この二つの GAH 指標は施設等のインフラに関する指標ではなく、地域の人々の雰囲気や地域の空気感を問う指標です。つまり、快適な生活環境とは、施設のインフラ面等が充実しているだけでなく、地域の人々の様子や地域の雰囲気も重要だということを示唆しています。

図表 6 快適な住環境の指標と相関係数が 0.30 以上の GAH 指標

NO	分野	指標	生活環境の充実
1	環境	まちなみの良さ	0.505
2	環境	施設のバリアフリー	0.493
3	環境	交通利便性	0.400
4	子教	望む子育てができる環境の充実	0.395
◎5	環境	心のバリアフリー	0.387
6	産業	まちの魅力	0.385
7	文化	地域への愛着	0.378
8	文化	地域の子育てへの理解・協力	0.377
9	子教	生涯学習環境の充実	0.376
10	産業	買い物の利便性	0.375
11	健福	福祉の充実	0.368
12	子教	子育て・教育環境の充実	0.365
13	産業	まちの産業	0.338
14	健福	医療の充実	0.328
◎15	文化	文化的寛容性	0.317
16	文化	地域の人との交流の充実	0.306
17	安全	防災性	0.303

注 一部の分野については略称表現を用いる。具体的には、健康・福祉分野を「健福」、子育て・教育分野を「子教」、安全・安心分野を「安全」と表記する。

(3) 子育てしやすい環境で説明する GAH 指標について

「子育てしやすい環境」の GAH 指標「望む子育てができる環境の充実」について、相関係数が高い順番にまとめたものが図表 7 です。

相関係数が高いものは、同じ分野の GAH 指標である「地域の子育てへの理解・協力」、「子育て・教育環境の充実」や他分野の「生涯学習環境の充実」であることがわかりました。このことから、子育てに関する周囲の理解、教育機関等が地域に備わっていること、子どもの習い事ができる環境の充実が子育てしやすい環境に関係があることがわかります。また、医療や福祉の充実をはじめ、地域の人との交流やまちそのものが賑わっていることも子育てしやすい環境に関係があることがわかりました。

その中で今回注目するのは 10 番目の「地域の人との交流の充実」、12 番目の「地域に頼れる人がある実感」の二つです。この二つの GAH 指標は、地域やその地域に住む人とのつながりを問う指標です。つまり、子育てしやすい環境とは、子育てに直結する教育環境の充実だけでなく、地域とのつながりも重要であることを示唆しています。

図表 7 子育てしやすい環境の指標と相関係数が 0.30 以上の GAH 指標

NO	分野	指標	望む子育てができる環境の充実
1	子教	望む子育てができる環境の充実	1
2	子教	地域の子育てへの理解・協力	0.699
3	子教	子育て・教育環境の充実	0.686
4	文化	生涯学習環境の充実	0.417
5	健福	福祉の充実	0.385
6	健福	医療の充実	0.359
7	子教	「生きる力」の習得	0.357
8	文化	文化的寛容性	0.349
9	文化	まちなみの良さ	0.340
◎10	環境	地域の人との交流の充実	0.340
11	環境	心のバリアフリー	0.337
◎12	文化	地域に頼れる人がある実感	0.334
13	産業	まちの産業	0.333
14	子教	家族の理解・協力	0.325
15	産業	ワーク・ライフ・バランス	0.320
16	産業	まちの魅力	0.318
17	産業	買い物の利便性	0.317
18	文化	地域への愛着	0.314

注 No.1 の「望む子育てができる環境の充実」は、同じ指標の相関係数を見ているため「1」となる。については、分析の対象外とする。

(4) 安心して暮らせる環境で説明する GAH 指標について

「安心して暮らせる環境」の GAH 指標「安全・安心の実感」について、相関係数が高い順番にまとめたものが図表 8 です。

相関係数が高いものは、同じ分野の GAH 指標である「防災性」、「個人の備え」、「防犯性」であることがわかりました。これは、地域が災害に強いことや犯罪が起きにくいこと、災害に対する個人の準備が整っていることが安心して暮らせる環境につながることを示唆しています。加えて、「まちなみの良さ」と「施設のバリアフリー」も関係があることがわかりました。まちなみの良さについては、景観が悪い（夜道に暗がりが多い、空き家が多い等）と安心して暮らせるまちとは言い難く、施設のバリアフリーについては、施設が災害時の避難所として機能する際に、避難者が安心して過ごせる場所となっていることも、安心して暮らせる環境に関係する可能性があります。また、災害時の地域との関係性も関係があることがわかります。

その中で注目するのが 2 番目の「個人の備え」と 6 番目の「災害時の絆・助け合い」です。この二つの GAH 指標は施設やインフラ等に関するのではなく、災害に備えて個人ができること、災害が発生した時の地域とのつながりを問う指標です。つまり、安心して暮らせる環境とは、ハード面の強化だけではなく、個人の取組や地域とのつながりも重要であることを示唆しています。

図表 8 安心して暮らせる環境の指標と相関係数が 0.30 以上の GAH 指標

NO	分野	指標	安全・安心の実感
1	安全	防災性	0.657
◎2	安全	個人の備え	0.419
3	安全	防犯性	0.401
4	環境	まちなみの良さ	0.379
5	環境	施設のバリアフリー	0.327
◎6	安全	災害時の絆・助け合い	0.327
7	安全	交通安全性	0.315

(5) まとめ

三つの環境で設定した指標と GAH 指標（下位指標 39 指標）の関係性や、人との関わりや地域との関わりといった形のない魅力（ソフト面）に注目して、データ分析の対象となる GAH 指標を選定しました。選定結果と特徴については、図表 9 をご覧ください。次の章では、本章で選定した GAH 指標における回答者の属性分析を行い、分析結果を踏まえた政策提言を行います。

図表 9 三つの環境と選定した GAH 指標一覧

三つの環境	選定した GAH 指標	特徴
快適な住環境	心のバリアフリー 文化的寛容性	・地域の人々の様子や地域の雰囲気重要なことを示唆。
子育てしやすい環境	地域の人との交流の充実 地域に頼れる人がいる実感	・地域とのつながりが重要であることを示唆。
安心して暮らせる環境	個人の備え 災害時の絆・助け合い	・個人の取組や地域とのつながりも重要なことを示唆。

4 GAH 指標の属性分析について

(1) 各 GAH 指標における回答者の属性の選定

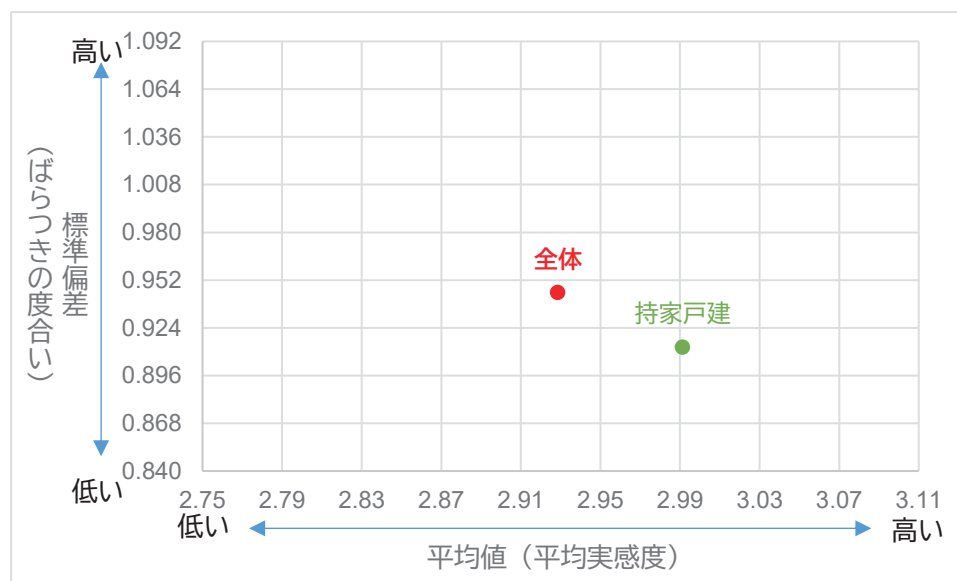
先ほど選定した GAH 指標における回答者の属性の分析を行います。本レポートで取り上げる属性は四つあり、具体的には、「年齢」、「居住年数」、「居住形態」、「家族構成」です。これらの属性に絞った理由は、これらの属性が行政サービスに活用できる属性であり、分析結果から新しい事業の展開につながる側面を有しているためです。また、これらの属性は相互補完性が高く、クロス集計分析をするとより深いデータ分析をすることができます。これらの利点を踏まえて、四つの属性に注目して属性分析を行います。

(2) 散布図の読み方について

これから示す散布図の読み方について、心のバリアフリーの散布図から一部の属性を抜粋した図表 10 を用いて説明します。この見方は、あとの図表 11、図表 13、図表 16、図表 18、図表 21、図表 23 でも同様です。散布図は、横軸にその GAH 指標の平均値、縦軸に標準偏差を取り、異なる属性に対する GAH 指標の値を示しています。例として図表中央の「全体」の示す点は、「心のバリアフリー指標」について、過去 11 年分のアンケート回答者全体の実感度の平均値が 2.93、標準偏差が 0.945 であることを示しています（各属性の数字については巻末資料をご覧ください）。同様に「持家戸建」の示す点は、アンケート回答者のうち、「持家である戸建住宅」に住んでいる人の実感度の平均値が 2.99、標準偏差が 0.913 であることを示しています。

そして、属性ごとの「値の意味」についても説明します。平均値については、ある属性の実感の平均値が「全体」や他の属性と比較して高ければ、「心のバリアフリー」があると感じる人が多いことを示唆します。一方の標準偏差の場合、ある属性の実感の標準偏差が比較的高いということは、その属性内でも実感度のばらつきが大きく、その属性内に実感度の高い人と低い人が混在していることを示唆します。

図表 10 心のバリアフリーの属性ごとの平均値と標準偏差（一部抜粋）



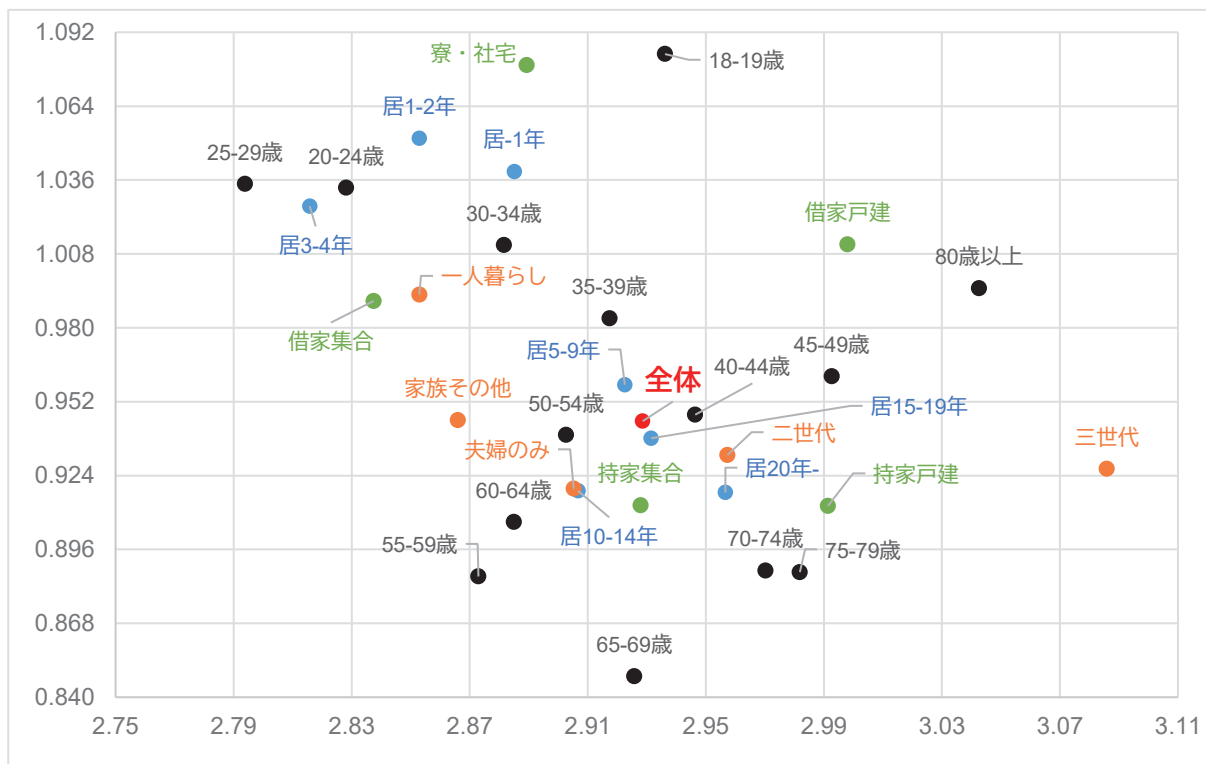
(3) 快適な住環境と関わりのある GAH 指標の属性分析

ここから、快適な住環境と相関関係のある二つの GAH 指標（図表 6 の 5 番目と 15 番目）について、その属性ごとの平均値や標準偏差をもとに、特徴を見ていきます。

①心のバリアフリー（環境分野）

図表 11 は GAH 指標「心のバリアフリー」の属性ごとの散布図です。また、本指標の質問文⁵を脚注に掲載しましたので、ご覧ください。

図表 11 心のバリアフリーの属性ごとの平均値と標準偏差



注 縦軸は「標準偏差」、横軸は「平均値（平均実感度）」である。

(i) 年齢

年齢（黒色）について見ていきます。20代の平均値が他の年代と比較すると低い傾向にあります。また、40代と70歳以上の年齢層が全体の平均値を上回っています。要因の一つとして、高齢者の方々は日頃から地域の人とのつながりがあり、その中で自分が困っているときに助けってもらった経験があり、自分の住む地域では、困っている人への声掛けの雰囲気醸成されていると感じている可能性があります。また、40代の属性は、子育て経験をきっかけに地域の人とのやさしさに触れることを通じて、地域の温もりを感じた経験があり、平均値が高い可能性があります。

なお、18歳～34歳については、回答者間のばらつきがあります。これは、同じ年代でも回答者の数値が異なるため、平均値だけで判断せずに、細かい分析（例えば、年齢と地域のクロス集計分析等）を行うと「〇〇地域の20代の平均値が低い」等の新たな分析結果を得られる可能性があります。

⁵ 質問文は、「お住まいの地域には、困っている人を見かけた時に、声を掛けたり協力したりしやすい雰囲気があると感じますか？」

(ii) 居住年数

居住年数（青色）について見ていきます。荒川区に居住して4年以下の属性については、他の居住年数の属性と比較すると平均値が低い傾向にあります。また、年齢と同様、居住年数が4年以下の属性については、回答者間にばらつきがあります。居住年数が15年以上の属性は、全体の平均値を上回っています。一つの要因として、長年その地域に住むことで地域の人との交流を通じて、「困ったときはお互い様」精神が地域で醸成されたため、平均値が高い可能性があります。

(iii) 居住形態

居住形態（緑色）について見ていきます。集合住宅の平均値は戸建住宅と比較すると低い傾向にあります。その要因の一つとして、「地域とのつながり」が形成しづらいことが挙げられます。集合住宅の場合、「集合住宅内のつながり（例えば、隣の部屋の人）」が形成される一方で、集合住宅外の「地域」とのつながりは形成しづらい可能性があります。他方、戸建住宅の場合は、近隣とのつながりが「地域」とのつながりであり、集合住宅に住む属性と比較すると「地域とのつながり」が形成しやすく、平均値の差の一つの要因となっている可能性があります。

また、借家集合住宅は持家集合住宅と比較すると平均値が低く、回答者間にばらつきが見受けられます。これらの要因の一つとして、「団体への加入」が挙げられます。例えば、持家集合住宅には「管理組合」があり、集合住宅の居住者全世帯が加入します。そして、管理組合を通して、地域とのつながり（防災訓練を一緒に行う等）を持っていれば、それをきっかけに地域の雰囲気を感じる事ができる可能性があります。一方で、借家集合住宅の場合は、管理組合のような団体はなく、自発的に地域との関わりを持たないと地域の雰囲気を感じる事が少ない可能性があります。こうした違いが平均値の差や属性間でのばらつきを生む一つの要因だと考えられます。

(iv) 家族構成

家族構成（オレンジ色）について見ていきます。全体の平均値を下回っているのは、「一人暮らし」、「夫婦のみ」、「家族その他」です。要因の一つとして、地域活動への参加が挙げられます。例えば、「二世帯」や「三世帯」の場合は「子ども」の存在があります。PTAや地域の活動への参加を通じて、地域の雰囲気を感じる事ができるのではないのでしょうか。一方、他の属性は、自発的に地域との関わりを持たない限り、地域の雰囲気を感じる事が少ない可能性があります。こうした要因が相まって、平均値が低い傾向にある可能性があります。

以上、GAH指標「心のバリアフリー」の属性ごとの主な特徴です。図表12に特徴をまとめましたので、ご覧ください。

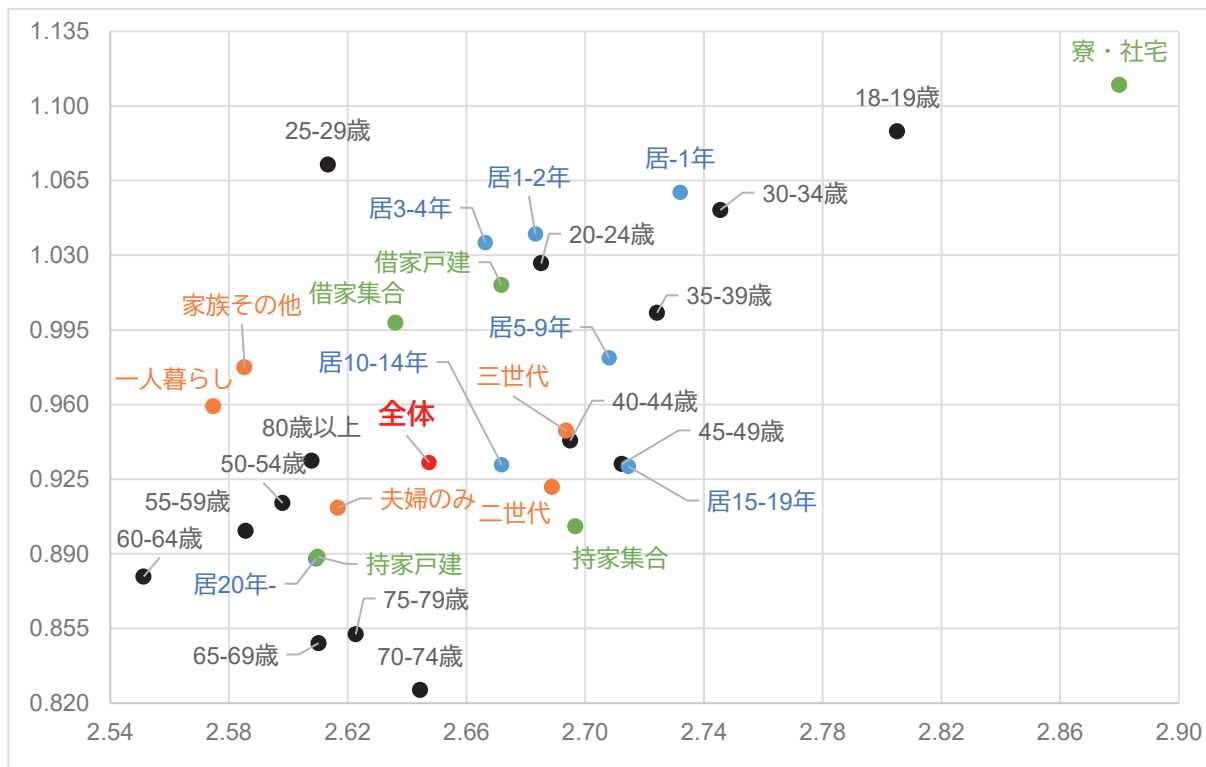
図表12 心のバリアフリーの主な属性ごとの特徴

年齢	居住年数	居住形態	家族構成
<ul style="list-style-type: none">・他の年齢層と比較すると、20代の平均値が低い傾向にある。・40代と70代以上の年齢層が全体の平均値を上回っている。・18歳～34歳の平均値にばらつきがある。	<ul style="list-style-type: none">・他の居住年数と比較すると、4年以下の平均値が低い傾向にある。・4年以下の属性では平均値にばらつきがある。・居住年数が15年以上の属性は、全体の平均値を上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・借家と持家の区分を問わず、集合住宅の平均値が低い傾向にある。・借家集合の平均値は一番低く、平均値にばらつきがある。	<ul style="list-style-type: none">・一人暮らし、夫婦のみ、家族その他の平均値が低い傾向にある。

②文化的寛容性（文化分野）

図表 13 は指標名「文化的寛容性」についての属性ごとの散布図です。また、本指標の質問文⁶を脚注に掲載しましたので、ご覧ください。

図表 13 文化的寛容性の属性ごとの平均値と標準偏差



(i) 年齢

年齢（黒色）について見ていきます。50歳以上の属性は全体の平均値よりも低い傾向にあり、20代前半および30歳～49歳の年齢層は全体の平均値を上回っています。一つの要因として、年齢を重ねると日頃の活動範囲が自分の住んでいる地域に限られる可能性があること、居住地域における外国人割合が少ないと、異文化との交流する機会が少なくなってしまうことが考えられます。その結果として、自身を含め地域において、自分とは異なる文化を持つ人々を受け入れている雰囲気が醸成されていると感じることができない可能性があります。

(ii) 居住年数

居住年数（青色）について見ていきます。居住年数については、居住年数が20年以上の属性だけが全体の平均値よりも低い傾向にあります。これは、居住年数が長い人ほど地域に住み続けたいと考える人が多いことが考えられます。そして、一つの要因として、これまで慣れ親しんだ地域の中に異なる文化を持つ人が地域に入ってくることで慣れ親しんだ地域が変化することを恐れてしまい、その結果、自分とは異なる文化を持つ人々を受け入れる雰囲気が醸成されていないと感じている可能性があります。

⁶ 質問文は、「お住まいの地域には、文化や言語が自分と異なる人々を理解しようとする雰囲気があると感じますか？」

(iii) 居住形態

居住形態（緑色）について見ていきます。借家集合と持家戸建の属性が全体の平均値よりも低い傾向にあり、特に持家戸建の平均値が低い傾向にあります。一つの要因として、地域における外国人の割合や地域の住宅状況が影響している可能性があります。つまり、集合住宅が多い地域では、外国人の割合が高く、異文化を受け入れる雰囲気地域にあり、逆に戸建住宅が多い地域では、外国人の割合が低く、異文化を受け入れる雰囲気を感じることが少ない可能性があります。

(iv) 家族構成

家族構成（オレンジ色）について見ていきます。全体の平均値を下回っているのは、「一人暮らし」、「夫婦のみ」、「家族その他」で、全体の平均値を上回っているのは「二世帯」、「三世帯」です。「二世帯」や「三世帯」の平均値が他の家族構成の属性と比較して高い一つの要因として、「子ども」の存在が挙げられます。例えば、子どもの同級生に外国人の生徒がいる場合、子どもを通じて、間接的に異文化に触れ、異文化を理解する機会があることが予測されます。また、先述のGAH指標「心のバリアフリー」で述べたように、子どもを通じて地域とのつながりが構築され、地域の人と異文化についての話をする中で、自分の住んでいる地域において異文化を受け入れる雰囲気が醸成されていると感じることができ、その結果、地域において異文化を受け入れる雰囲気があると感じている可能性があります。

以上、GAH指標「文化的寛容性」の属性ごとの主な特徴です。図表14に記載内容をまとめましたので、ご覧ください。

図表 14 文化的寛容性の主な属性ごとの特徴

年齢	居住年数	居住形態	家族構成
・50歳以上の平均値が全体の平均値よりも低い傾向にある。	・居住年数が20年以上になると、平均値が低い傾向にある。	・持家戸建の平均値が最も低い傾向にある。	・二世帯や三世帯の平均値が全体の平均値を上回っている。

③ 快適な住環境の実現に向けて

快適な住環境と関わりのあるGAH指標のうち、ソフト面に関する二つのGAH指標の属性分析を行いました。属性分析の結果については、主に①若い世代（20代）の心のバリアフリーの平均値が低い、②高齢者の文化的寛容性の平均値が低いことがわかりました。また、③若い世代と地域の人々や高齢者と異文化の人々の交流・接触が少ないことも考えられます。

最後に、属性分析の結果を踏まえ、快適な住環境の実現に向けた政策提案を図表15に示しました。政策を通じて人々の間の絆を育むことで「快適な住環境」実現にもつながると考えます。

図表 15 快適な住環境の実現に向けての政策提案

若い世代が地域社会に参画するきっかけづくり

高齢者をはじめとする地域における異文化への理解づくり

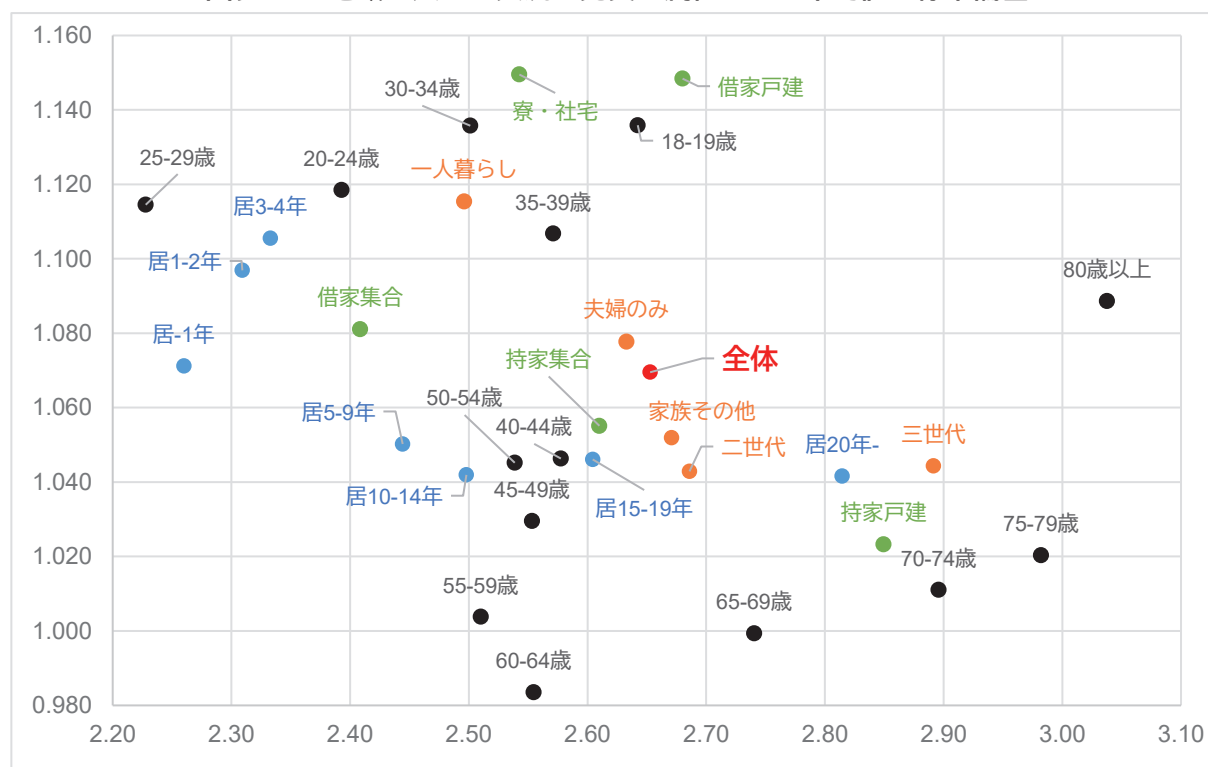
(4) 子育てしやすい環境と関わりのある GAH 指標の属性分析

次に、子育てしやすい環境と相関関係のある二つの指標（図表 7 の 10 番目、12 番目）について、その属性ごとの平均値や標準偏差をもとに、特徴を見ていきます。

①地域の人との交流の充実（文化分野）

図表 16 は指標名「地域の人との交流の充実」についての属性ごとの散布図です。また、本指標の質問文⁷を脚注に掲載しましたので、ご覧ください。

図表 16 地域の人との交流の充実の属性ごとの平均値と標準偏差



(i) 年齢

年齢（黒色）について見ていきます。他の年齢層と比較すると、20代の平均値が低い傾向にあります。また、65歳未満の属性は、全体の平均値を下回っている一方で、65歳以上の属性は全体の平均値を上回っています。一つの要因として、65歳以上の属性は退職等によりライフステージが変わることが挙げられます。また、先述の GAH 指標「文化的寛容性」でも説明しましたが、年齢を重ねるごとに活動範囲が狭くなり、以前から交流のある地域の人とより親交を深めることができ、地域の人との交流を通じて充実感を得ている人が多いと考えられます。

(ii) 居住年数

居住年数（青色）について見ていきます。居住年数については、居住年数が長くなるほど、平均値が高い傾向です。これは、居住年数が長い人ほど、地域の人との関係が構築されており、交流を通じて充実感を得ている人が多い可能性があります。ただし、居住年数が長くても地域の活動に参加していないなど、地域との関わりを自ら持たないと、地域の人との交流の充実を感じな

⁷ 質問文は、「お住まいの地域の方と交流することで充実感が得られていると感じますか？」

い可能性もありますので、注意が必要です。

(iii) 居住形態

居住形態（緑色）について見ていきます。集合住宅の平均値が戸建住宅と比較すると低い傾向にあります。これは、先述の GAH 指標「心のバリアフリー」で説明した通り、集合住宅の場合、集合住宅の外にある「地域」とのつながりが希薄で、地域の人とは交流できていないと感じ、地域の人と交流の充実を感じていない可能性があります。

(iv) 家族構成

家族構成（オレンジ色）について見ていきます。全体の平均値を下回っているのは、「一人暮らし」、「夫婦のみ」です。要因の一つとして、先述の GAH 指標「心のバリアフリー」で説明した通り、これらの属性は地域の人と交流する機会が少なく、その結果として、地域の人との交流の充実を感じない可能性があります。

以上、GAH 指標「地域の人との交流の充実」の属性ごとの主な特徴です。図表 17 に記載内容をまとめましたので、ご覧ください。

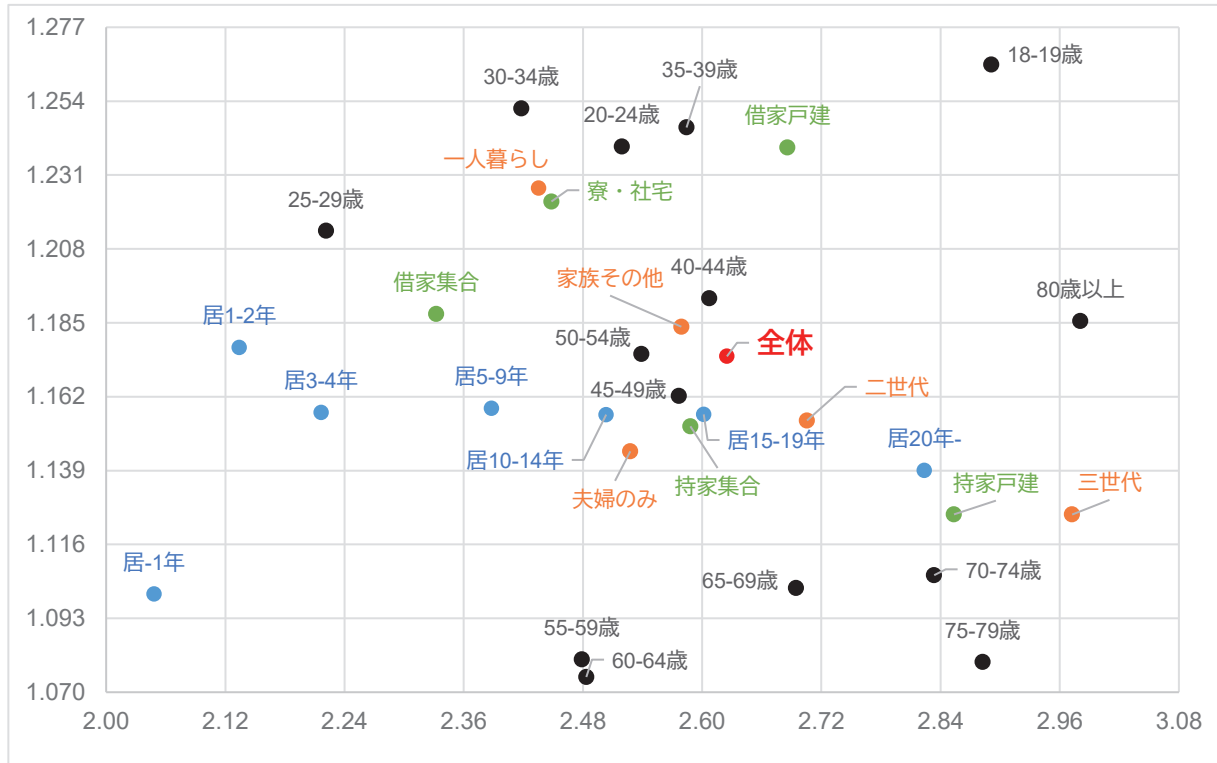
図表 17 地域の人との交流の充実の主な属性ごとの特徴

年齢	居住年数	居住形態	家族構成
<ul style="list-style-type: none">・他の年齢層と比較すると、20 代の平均値が低い傾向にある。・65 歳以上の属性は全体の平均値を上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・居住年数が長くなるほど、平均値が高くなる傾向にある。	<ul style="list-style-type: none">・借家と持家の区別を問わず、集合住宅の平均値が低い傾向にある。	<ul style="list-style-type: none">・一人暮らし、夫婦のみの平均値が低い傾向にある。

②地域に頼れる人がいる実感（文化分野）

図表 18 は指標名「地域に頼れる人がいる実感」についての属性ごとの散布図です。また、本指標の質問文⁸を脚注に掲載しましたので、ご覧ください。

図表 18 地域に頼れる人がいる実感の属性ごとの平均値と標準偏差



(i) 年齢

年齢（黒色）について見ていきます。他の年齢層と比較すると、20代後半から30代前半の平均値が低い傾向にあります。また、65歳以上の属性は全体の平均値を上回っています。この傾向は、先述のGAH指標「地域の人との交流の充実」と同じ傾向にあります。つまり、地域の人との交流の充実を感じている65歳以上の人は、困ったことがあれば頼りになる人が地域にいると実感している可能性があります。

(ii) 居住年数

居住年数（青色）について見ていきます。居住年数については、居住年数が長くなるほど、平均値が高くなる傾向があります。年齢の属性と同様に、GAH指標「地域の人との交流の充実」と同じ傾向にあることがわかります。つまり、居住年数が長い人ほど、地域の人との関係が構築されており、交流を通じて充実感を得ており、その結果として、地域に頼れる人がいると実感できているのではないのでしょうか。

(iii) 居住形態

居住形態（緑色）について見ていきます。集合住宅の平均値が戸建住宅と比較すると低い傾向にあります。先述のGAH指標「心のバリアフリー」と同様、集合住宅に住む属性は、地域の人との交流の機会が少なく、その結果、地域に頼れる人がいないと感じている可能性があります。

⁸ 質問文は、「お住まいの地域に頼れる人がいると感じますか？」

(iv) 家族構成

家族構成（オレンジ色）について見ていきます。全体の平均値を下回っているのは、「一人暮らし」、「夫婦のみ」、「家族その他」です。「一人暮らし」、「夫婦のみ」については、下位指標「地域の人との交流の充実」と同様に地域と交流する機会が少なく、その結果として平均値が低い可能性があります。一方で、「家族その他」については、「地域の人との交流の充実」とは異なり、全体の平均値を下回っています。一つの要因として、地域の人との交流に満足していても、「地域に頼れる人がいる」と思う人は少ない可能性があります。

以上、GAH 指標「地域に頼れる人がいる実感」の属性ごとの主な特徴です。図表 19 に記載内容をまとめましたので、ご覧ください。

図表 19 地域に頼れる人がいる実感の主な属性ごとの特徴

年齢	居住年数	居住形態	家族構成
・20 代後半から 30 代前半の平均値が低い傾向にある。 ・65 歳以上の属性は全体の平均値を上回っている。	・居住年数が長くなるほど、平均値が高くなる傾向にある。	・借家と持家の区分を問わず、集合住宅の平均値が低い傾向にある。	・一人暮らし、夫婦のみ、家族その他の平均値が低い傾向にある。

③子育てしやすい環境の実現に向けて

子育てしやすい環境と関わりのある GAH 指標のうち、ソフト面に関する二つの GAH 指標の属性分析を行いました。属性分析の結果については、主に①若い世代（20 代や 30 代）の平均値が低い、②地域とのつながりが少ないとみられる属性の平均値が低いことがわかりました。また、③早期に地域とのつながりを構築することの重要性が考えられます。

最後に、属性分析の結果を踏まえての子育てしやすい環境の実現に向けた政策提案を図表 20 にまとめました。政策を通じて人々の間の絆を育むことが「子育てしやすい環境」実現にもつながると考えます。

図表 20 子育てしやすい環境の実現に向けての政策提案

若い世代が地域社会に参画するきっかけづくり
地域とのつながりのきっかけづくり

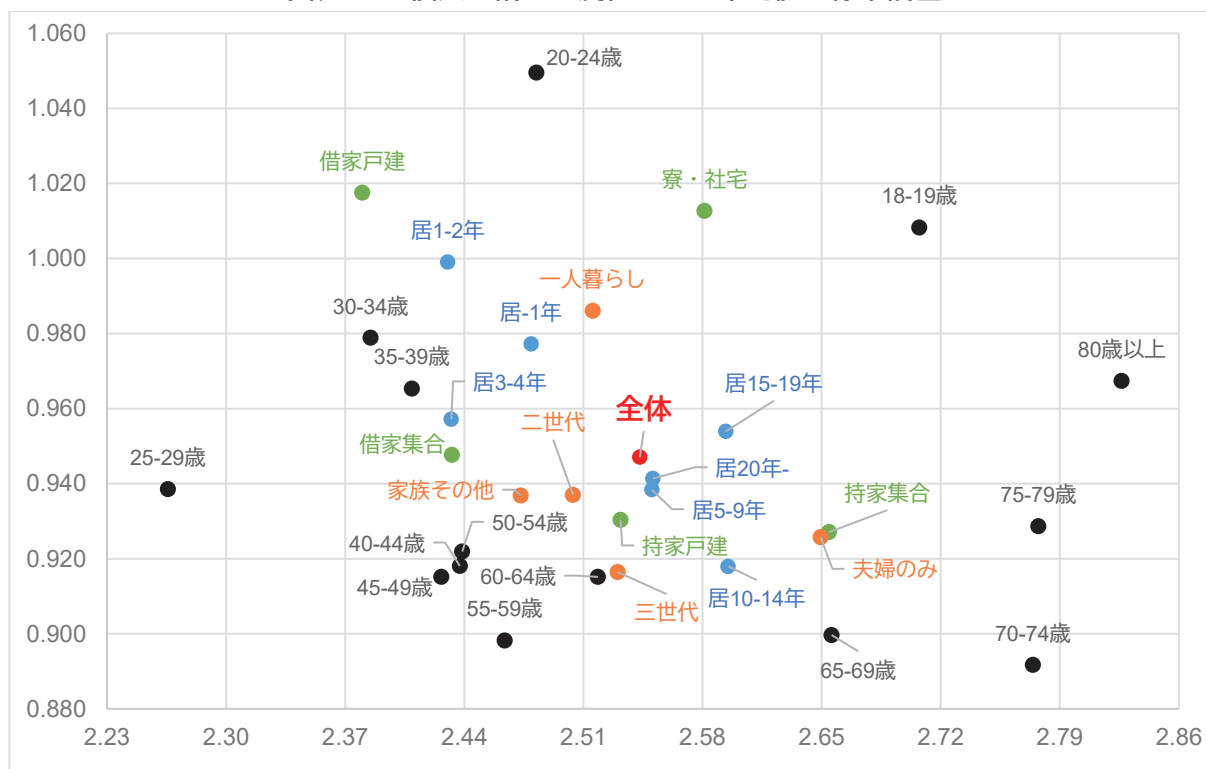
(5) 安心して暮らせる環境と関わりのある GAH 指標の属性分析

最後に、安心して暮らせる環境と相関関係のある二つの指標（図表 8 の 2 番目と 6 番目）について、その属性ごとの平均値や標準偏差をもとに、特徴を見ていきます。

①個人の備え（安全・安心分野）

図表 21 は指標名「個人の備え」についての属性ごとの散布図です。また、本指標の質問文⁹を脚注に掲載しましたので、ご覧ください。

図表 21 個人の備えの属性ごとの平均値と標準偏差



(i) 年齢

年齢（黒色）について見ていきます。他の年齢層と比較すると、20代後半～30代の平均値が低い傾向にあります。そして、18歳～19歳および65歳以上の属性は全体（赤字）の平均値を上回っています。一つの要因として、荒川区では、防災事業に積極的に取り組んでおり、その一つの例として中学校での防災部の活動があります。子どもの時から防災事業に取り組むことで、災害時における個人の準備の重要性を理解し、行動している可能性があります。また、高齢者については、地域の防災活動への参加を通じ、個人の備えの重要性を理解し、行動に移すことで安心感を得ている可能性があります。

(ii) 居住年数

居住年数（青色）について見ていきます。他の居住年数と比較すると、4年以下の属性の平均値が低い傾向にあり、居住年数が5年以上になると全体の平均値を上回っています。居住年数の属性だけで平均値の度合いを判断するのは難しいですが、一つの要因として「地域とのつながり」

⁹ 質問文は、「災害（地震・火災・風水害）に対する備えを十分にしている安心感がありますか？」

があると考えます。先述の GAH 指標「地域の人との交流の充実」や「地域に頼れる人がいる実感」で述べたように、居住年数が長い属性は地域の人との交流の充実や地域に頼れる人がいると感じている人が多いことがわかりました。ここから、そういった属性が地域の人との関わりの中で、「災害に対する個人の備え」の重要性を理解し、行動に移すことで安心感を得ている可能性があります。

(iii) 居住形態

居住形態（緑色）について見ていきます。戸建住宅か集合住宅かに関わらず、持家は借家の平均値を上回っています。居住形態のみで平均値の差を把握するのは難しいですが、一つの要因として、地域の防災性が考えられます。例えば、大地震が発生した際に、建物の倒壊などが起き、避難所に避難できない場合、自宅で過ごすために必要な物資を平常時から準備しておく必要があります。また、持家集合住宅の平均値が高い一つの要因として、荒川区が実施している分譲マンションに対する各種事業が挙げられます。例えば、「荒川区コンサルタント派遣制度」では、分譲マンション管理組合等を対象にマンション管理等に関する専門的な助言をするコンサルタントを無料で派遣しています。この取組ではマンションの防災に対する相談も対象となっています。こうした制度等を活用した結果、持家集合住宅の人の平均値が高い傾向にあると考えられます。

また、荒川区では令和 7 年に「荒川区分譲マンションへの防災対策費助成金交付要綱」を策定し、新たな分譲マンションへの防災対策支援を始めました。具体的には、耐震性・耐火性を有する分譲マンションの居住者に対して、防災対策工事等の費用の一部を助成する制度です。今後、持家集合住宅に住む人の実感度の更なる向上が見込まれます。

(iv) 家族構成

家族構成（オレンジ色）について見ていきます。全体の平均値を上回っているのは夫婦のみの属性だけです。要因の一つとして、夫婦のみ以外の属性については個人の備えの重要性は理解しているものの、なかなかそこまで手が届かない状況にある（仕事や育児等）ため、個人の備えに対して不安を抱えている可能性があります。いずれにせよ、家族構成のみで平均値の高低を考察することは難しく、他の属性と組み合わせて分析することが望ましいと考えられます。

以上、GAH 指標「個人の備え」の属性ごとの主な特徴です。図表 22 に記載内容をまとめましたので、ご覧ください。

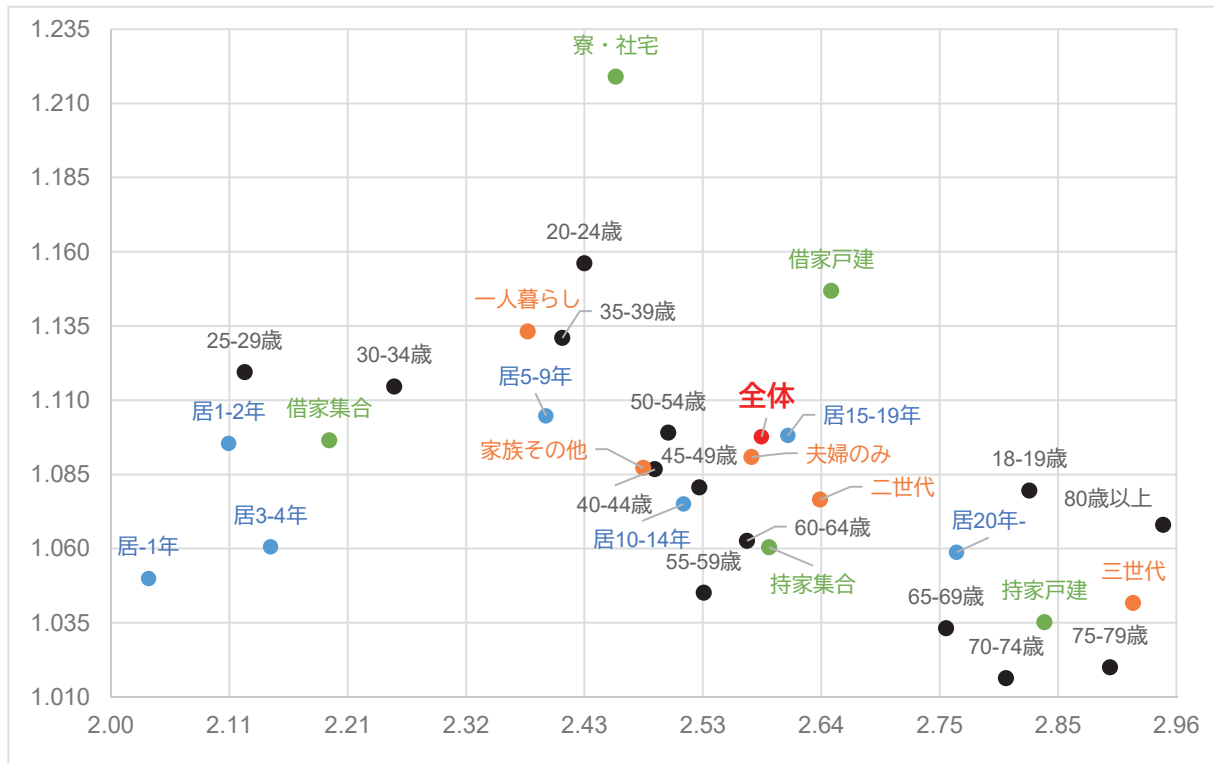
図表 22 個人の備えの主な属性ごとの特徴

年齢	居住年数	居住形態	家族構成
<ul style="list-style-type: none"> ・他の年齢層と比較すると、20代後半～30代の平均値が低い傾向にある。 ・18歳～19歳および65歳以上の属性は全体の平均値を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年以下の属性の平均値が低い傾向にある。 ・5年以上の属性については、全体の平均値を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持家集合の平均値が最も高い。 ・戸建・集合の種類にかかわらず、持家の属性の平均値は借家の属性と比較して高い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の平均値を上回っているのは夫婦のみである。

②災害時の絆・助け合い（安全・安心分野）

図表 23 は指標名「災害時の絆・助け合い」についての属性ごとの散布図です。また、本指標の質問文¹⁰を脚注に掲載しましたので、ご覧ください。

図表 23 災害時の絆・助け合いの属性ごとの平均値と標準偏差



(i) 年齢

年齢(黒色)について見ていきます。他の年齢層と比較すると、20代後半～30代前半の平均値が低い傾向にあります。そして、18歳～19歳および65歳以上の属性は全体の平均値を上回っています。この傾向は先述のGAH指標「個人の備え」と同じ傾向であり、荒川区の充実した防災事業や地域での防災活動への参加等が一つの要因となって、平均値が高い可能性があります。

(ii) 居住年数

居住年数(青色)について見ていきます。居住年数については、居住年数が長くなるほど、平均値が高い傾向にあります。この傾向は「子育てしやすい環境」で説明したGAH指標「地域の人との交流の充実」や「地域に頼れる人がいる実感」と同じ傾向にあります。つまり、居住年数が長い属性については、地域の人とのつながりを構築しており、それを一つの要因として、災害が起きた際は、近隣の人と助け合う関係にあると感じる人が多い可能性があります。

(iii) 居住形態

居住形態(緑色)について見ていきます。他の居住形態と比較して、借家集合住宅の平均値が低い傾向にあることがわかります。また、本質問は、集合住宅外である「地域」との関係だけでなく集合住宅内との関係についても聞いています。つまり、借家集合住宅については、地域とのつながりや集合住宅内とのつながりそのものが希薄化している可能性があります。一方で、持家

¹⁰ 質問文は、「災害時に近隣の人と助け合う関係があると感じますか？」

集合住宅については、地域の人とのつながりをはじめ、集合住宅内でのつながりが構築されており、その結果として、災害時に近隣の人と助け合う関係があると感じる人が多い可能性があります。

(iv) 家族構成

家族構成（オレンジ色）について見ていきます。全体の平均値を下回っているのは、「一人暮らし」、「夫婦のみ」、「家族その他」です。この傾向は GAH 指標「地域に頼れる人がいる実感」と同じ傾向にあります。つまり、近隣の人や地域とのつながりが希薄であることを一つの要因として、これらの属性は災害時に周囲の人と助け合う関係ができていないと感じている可能性があります。

以上、GAH 指標「災害時の絆・助け合い」の属性ごとの主な特徴です。図表 24 に記載内容をまとめましたので、ご覧ください。

図表 24 災害時の絆・助け合いの主な属性ごとの特徴

年齢	居住年数	居住形態	家族構成
<ul style="list-style-type: none"> ・他の年齢層と比較すると、20代後半～30代前半の平均値が低い傾向にある。 ・18歳～19歳および65歳以上の属性は全体の平均値を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居住年数が長くなるほど、平均値が高くなる傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の居住形態と比較して、借家集合住宅の平均値が低い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし、夫婦のみ、家族その他の平均値が低い傾向にある。

③安心して暮らせる環境の実現に向けて

安心して暮らせる環境と関わり合いのある GAH 指標のうち、ソフト面に関する二つの GAH 指標の属性分析を行いました。属性分析の結果については、主に①若い世代（20代～30代前半）の平均値が低い、②地域とのつながりが少ないとみられる属性の平均値が低いことがわかりました。また、③若い世代や居住年数が短い人への防災の普及啓発の必要性が考えられます。

最後に、安心して暮らせる環境の実現に向けた政策提案を図表 25 にまとめましたので併せてご覧ください。

図表 25 安心して暮らせる環境の実現に向けての政策提案

若い世代への防災普及啓発や地域社会に参画するきっかけづくり

地域における防災イベントを通じた地域とのつながりづくり

5 まとめ

(1) 滝口新区政と寛容で温かい地域

2024(令和6)年11月に荒川区長が代わり、滝口区長のもと荒川区は新たにスタートしました。滝口区長は2025(令和7)年度予算説明において、区政の各分野における世代・地域・人の力の三つの力をつなぐ取組を進めて、寛容で温かい地域づくりを通じて、荒川区の明るい未来につなげることを宣言しました。

(2) 住み続けたいと思うまちとGAH指標の関係

研究所は「寛容で温かい地域」とはどのような地域なのかを考えることにし、広辞苑で「寛容」と「温か」の意味を調べました。その結果、寛容で温かい地域を「自分とは異なる考えを持つ他者を相互に理解し、受け入れて穏やかに暮らすことのできる地域」のように考えると、「寛容で温かい地域」は「住み続けたいと思うまち」と言い換えられると研究所は考えます。

「住み続けたいと思うまち」の実現に向けて、GAH指標の最上位指標である「幸福実感度」を軸に幸福実感度が向上するための方策について考えました。具体的には、幸福実感度の向上に間接的に影響を与える三つの因子(住環境の充実、子育て環境、地域の安心感)を「快適な住環境」、「子育てしやすい環境」、「安心して暮らせる環境」と定義しました。

そして、それぞれの環境にGAH指標を当てはめて、そのGAH指標と正の相関関係がある六つのソフト面のGAH指標を選定しました。設定した指標は下記図表26をご覧ください。

図表26 三つの環境のGAH指標とそれら指標と関係のあるソフト面のGAH指標

三つの環境	三つの環境で設定したGAH指標	各環境のGAH指標と関係のあるソフト面のGAH指標
快適な住環境	生活環境の充実 (上位指標)	心のバリアフリー 文化的寛容性
子育てしやすい環境	望む子育てができる環境の充実 (下位指標)	地域の人との交流の充実 地域に頼れる人がいる実感
安心して暮らせる環境	安全・安心の実感 (上位指標)	個人の備え 災害時の絆・助け合い

(3) 三つの環境の実現に向けて

三つの環境で設定したGAH指標と関わり合いのあるソフト面のGAH指標について、「年齢」、「居住年数」、「居住形態」、「家族構成」の四つの属性に注目して属性ごとの平均値や標準偏差を示した散布図を作成し、データ分析を行いました。

その結果、若い世代の平均値が低いことや地域とのつながる機会が少ないと考えられる属性は平均値が低いこと等がわかりました。そこで、各環境における政策提言を行いました。各環境の実現に向けての政策提言の内容は図表27にまとめましたので、ご覧ください。

図表 27 各環境実現に向けての政策提言の内容

三つの環境	政策提言の内容
快適な 住環境	・若い世代が地域社会に参画するきっかけづくり ・高齢者をはじめとする地域における異文化への理解づくり
子育て しやすい環境	・若い世代が地域社会に参画するきっかけづくり ・地域とのつながりのきっかけづくり
安心して 暮らせる環境	・若い世代への防災普及啓発や地域社会に参画するきっかけづくり ・地域における防災イベントを通じた地域とのつながりづくり

「住み続けたいと思うまち」の実現のためには、インフラ設備といったハード面の充実が不可欠なことは言うまでもありませんが、GAH 指標の分析は、周囲の人とのつながりや地域の人の雰囲気といったソフト面での充実も必要なことを示唆しています。

こうした政策を実施することで、「住み続けたいと思うまち」に間接的に影響を与える「快適な住環境」、「子育てしやすい環境」、「安心して暮らせる環境」の「三つの環境」が整備され、荒川区が目指す「寛容で温かい地域」の実現につながると考えます。

現在、荒川区自治総合研究所では幸福度調査の研究や地域コミュニティに関する研究等、荒川区にとって必要となる研究を行っております。これからも研究所は荒川区と共に「寛容で温かい地域」、「荒川区の明るい未来」を共に実現できるよう精進してまいりたいと思います。

「文献」

荒川区、2025「あらかわ区報 2024 年 12 月 1 日号」荒川区ホームページ（2025 年 11 月 12 日取得、<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kouhou/koho/202412/index.html>）。

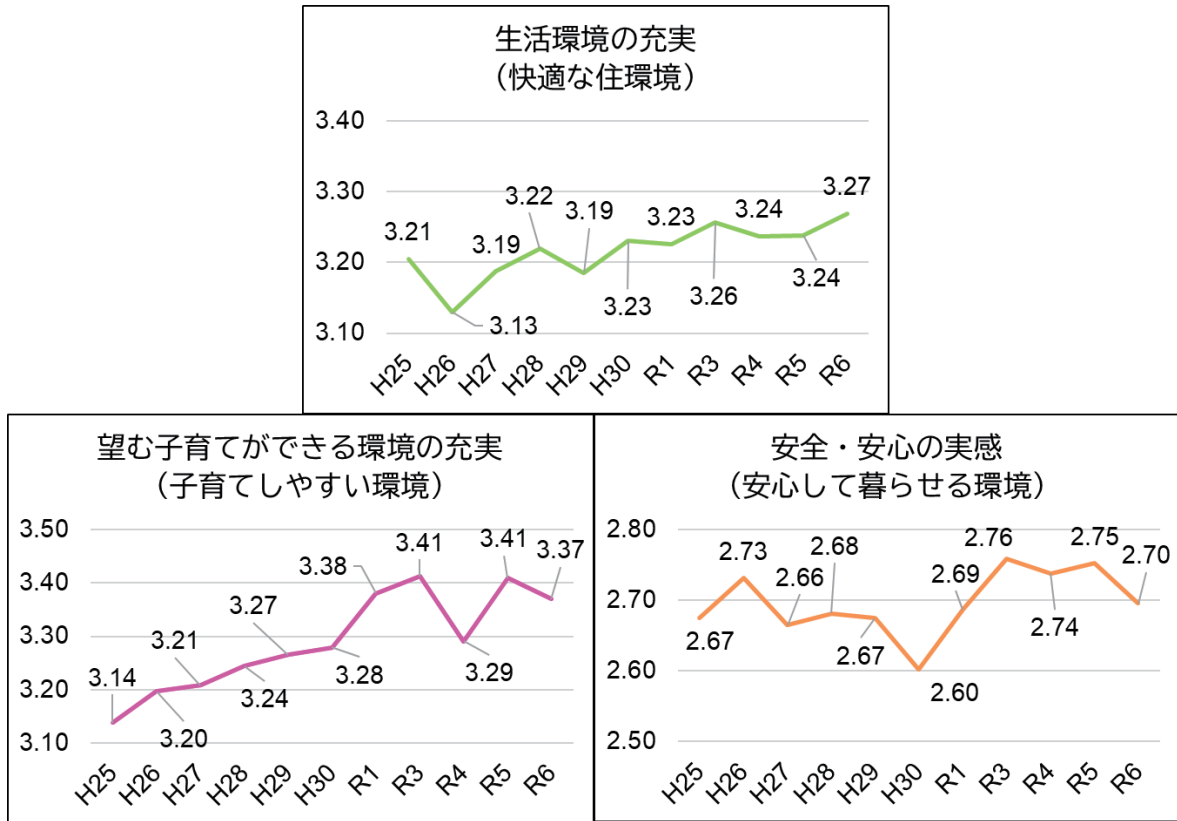
荒川区議会事務局、2025「荒川区 令和 6 年度定例会・2 月会議 02 月 14 日-01 号」、荒川区議会会議録検索システム（2025 年 11 月 12 日取得、https://ssp.kaigiroku.net/tenant/arakawa/MinuteView.html?council_id=651&schedule_id=2&is_search=false&view_years=2025）。

荒川区自治総合研究所編、2018『荒川区民総幸福度（GAH）に関する調査研究報告——GAH アンケート調査 5 年分の解析から見えてきた政策課題とその取り組みの方向性の試案』荒川区自治総合研究所（2025 年 11 月 12 日取得、https://rilac.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2015/08/gah_H30-12.pdf）。

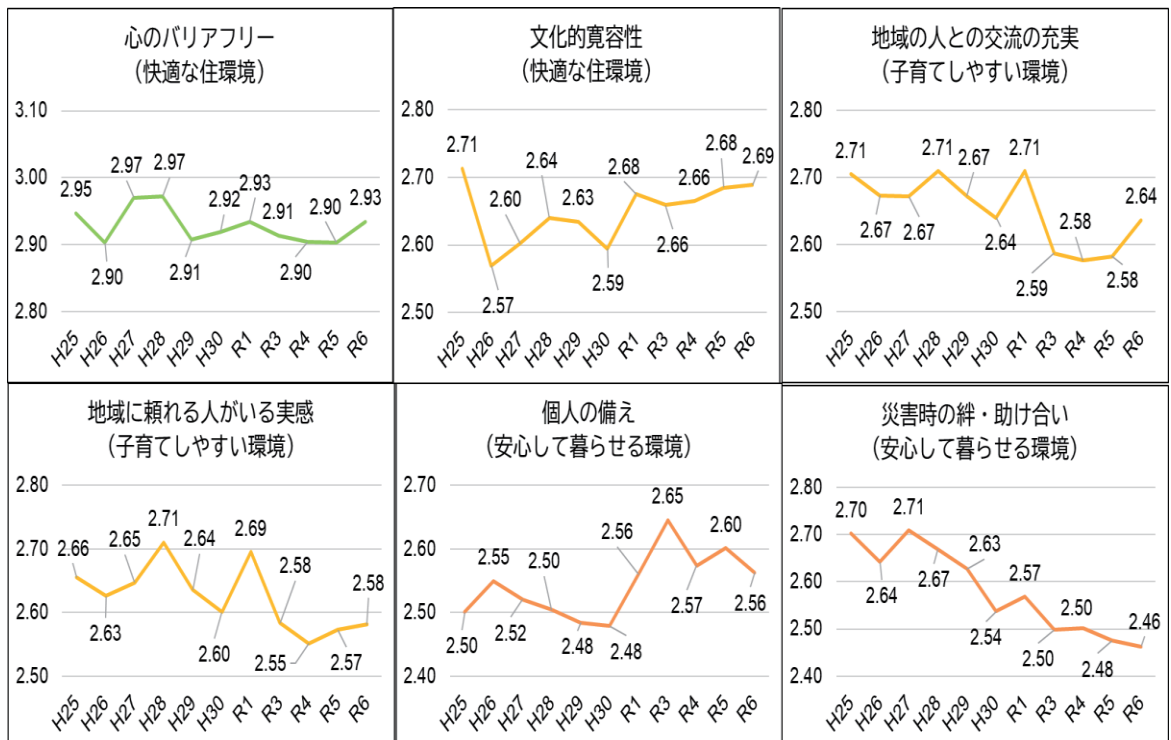
新村出編、2008『広辞苑 第六版』岩波書店。

巻末資料

(1) 三つの環境で設定した GAH 指標の経年変化（全体の平均値の推移）



(2) 6つの GAH 指標の経年変化（全体の平均値の推移）



(3) 6つのGAH指標における属性別の平均値と標準偏差

指標名		心のバリアフリー		文化的寛容性		地域の人との交流の充実		地域に頼れる人がある実感		個人の備え		災害時の絆・助け合い	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
年齢	18-19歳	2.94	1.084	2.81	1.088	2.64	1.136	2.89	1.265	2.71	1.008	2.83	1.080
	20-24歳	2.83	1.033	2.69	1.026	2.39	1.118	2.52	1.240	2.48	1.050	2.43	1.156
	25-29歳	2.79	1.035	2.61	1.073	2.23	1.115	2.22	1.214	2.27	0.938	2.12	1.119
	30-34歳	2.88	1.011	2.75	1.051	2.50	1.136	2.42	1.252	2.39	0.979	2.25	1.115
	35-39歳	2.92	0.984	2.72	1.003	2.57	1.107	2.58	1.246	2.41	0.965	2.41	1.131
	40-44歳	2.95	0.947	2.69	0.943	2.58	1.046	2.61	1.193	2.44	0.918	2.49	1.087
	45-49歳	2.99	0.962	2.71	0.932	2.55	1.029	2.58	1.162	2.43	0.915	2.53	1.081
	50-54歳	2.90	0.939	2.60	0.914	2.54	1.045	2.54	1.175	2.44	0.922	2.50	1.099
	55-59歳	2.87	0.886	2.59	0.901	2.51	1.004	2.48	1.080	2.46	0.898	2.53	1.045
	60-64歳	2.88	0.906	2.55	0.879	2.55	0.983	2.48	1.075	2.52	0.915	2.57	1.063
	65-69歳	2.93	0.848	2.61	0.848	2.74	0.999	2.69	1.102	2.66	0.900	2.75	1.033
	70-74歳	2.97	0.888	2.64	0.826	2.90	1.011	2.83	1.106	2.77	0.892	2.81	1.016
	75-79歳	2.98	0.887	2.62	0.852	2.98	1.020	2.88	1.079	2.78	0.929	2.90	1.020
	80歳以上	3.04	0.995	2.61	0.934	3.04	1.089	2.98	1.186	2.83	0.967	2.95	1.068
居住年数	1年未満	2.89	1.039	2.73	1.060	2.26	1.071	2.05	1.101	2.48	0.977	2.03	1.050
	1-2年	2.85	1.052	2.68	1.040	2.31	1.097	2.13	1.177	2.43	0.999	2.11	1.095
	3-4年	2.82	1.026	2.67	1.036	2.33	1.106	2.22	1.157	2.43	0.957	2.14	1.061
	5-9年	2.92	0.958	2.71	0.982	2.44	1.050	2.39	1.158	2.55	0.938	2.39	1.105
	10-14年	2.91	0.918	2.67	0.932	2.50	1.042	2.50	1.156	2.60	0.918	2.52	1.075
	15-19年	2.93	0.938	2.71	0.931	2.60	1.046	2.60	1.156	2.59	0.954	2.61	1.098
	20年以上	2.96	0.918	2.61	0.888	2.81	1.042	2.82	1.139	2.55	0.941	2.76	1.059
居住形態	持家戸建	2.99	0.913	2.61	0.889	2.85	1.023	2.85	1.125	2.53	0.930	2.84	1.035
	持家集合	2.93	0.913	2.70	0.903	2.61	1.055	2.59	1.153	2.65	0.927	2.59	1.060
	借家戸建	3.00	1.012	2.67	1.016	2.68	1.148	2.69	1.240	2.38	1.018	2.65	1.147
	借家集合	2.84	0.990	2.64	0.998	2.41	1.081	2.33	1.188	2.43	0.948	2.20	1.096
	寮・社宅	2.89	1.080	2.88	1.110	2.54	1.150	2.45	1.223	2.58	1.013	2.45	1.219
家族構成	一人暮らし	2.85	0.993	2.57	0.959	2.50	1.115	2.44	1.227	2.52	0.986	2.38	1.133
	夫婦のみ	2.91	0.919	2.62	0.912	2.63	1.078	2.53	1.145	2.65	0.926	2.58	1.091
	二世帯	2.96	0.932	2.69	0.921	2.69	1.043	2.71	1.155	2.50	0.937	2.64	1.076
	三世帯	3.09	0.927	2.69	0.948	2.89	1.044	2.97	1.125	2.53	0.916	2.92	1.042
	家族その他	2.87	0.945	2.59	0.977	2.67	1.052	2.58	1.184	2.47	0.937	2.48	1.087
全体	全体	2.93	0.945	2.65	0.933	2.65	1.070	2.62	1.175	2.54	0.947	2.59	1.098

荒川区民総幸福度（GAH）レポートに関わる分析・執筆

荒川区自治総合研究所研究員 前田 将義

荒川区自治総合研究所研究員 二神 常爾

荒川区区政調査専門員 和嶋 克洋

荒川区民総幸福度（GAH）レポート Vol.7

～住み続けたいと思うまちづくりに向けて～

令和8年3月

発行：公益財団法人荒川区自治総合研究所（RILAC）
Research Institute for Local government by Arakawa City

住 所	〒116-0002 東京都荒川区荒川 2-11-1
電話番号	03-3802-4861
ファックス	03-3802-2592
ホームページ	https://www.rilac.or.jp/